

平成26年度 水道事業会計決算状況

私たちの日常生活において、水は欠かせないものであり、水道は生活を支えるライフラインの一つです。市は、安全で良質な水道水を安定的に供給するため、市民の皆さんからいただく水道料金を主な財源として、水道施設の整備や維持管理などを行っています。

水道事業会計の概要

水道事業は、地方公営企業法に基づき地方自治体が経営する企業として運営しています。

そして、企業の経営成績、財政状態を明らかにするため、会計制度は企業会計方式を採用しているほか、事業に必要な経費は、経営に伴う収入（水道料金収入）をもって充てるという独立採算制を原則に経営を行っています。

このため、事業の運営に当たっては、本来の目的である公共の福祉を増進するとともに、常に効率的な事業運営を図り、企業の経済性を発揮することが求められています。現在はもちろん、将来に持続可能な水道とするためには、事業運営基盤の強化を図り、安全・安心な給水体制を確保する必要があります。

給水の状況

給水人口	49,504人
給水戸数	22,237戸
年間給水量	3,946,130立方メートル (1日1人当たり平均218ℓ)
平均配水量 (1日当たり)	13,028立方ℓ

収入と支出の概要

◎収益的収支

収益的収支とは、水をつくり家庭などに届けるための費用などの収支を表したものです。

収入合計は、予算の9億3千13万円に対し決算は9億946万円、2千67万円の減となりました。

また、支出合計は、予算の8億8千15万円に対し決算は8億3千108万円、4千907万円の減となりました。この結果、収支決算は、7千838万円の黒字となりました。

この黒字額については、国などからの借入金今後の元金償還に備えるため減債積立金に3千937万円、配水管の更新などの施設整備に備えるため建設改良積立金に3千900万円を積み立てる予定です。

収益的収支

項目	金額
収益的収入	9億946万円
営業収益	8億7,505万円
(うち給水収益)	8億3,775万円
営業外収益	3,405万円
特別利益	36万円
収益的支出	8億3,108万円
営業費用	7億2,250万円
営業外費用	9,644万円
特別損失	1,214万円
純利益	7,838万円

◎資本的収支

資本的収支とは、浄水施設や配水池、配水管の整備などに使用するための収支を表したものです。

収入合計は、予算の1億8千495万円に対し決算は1億2千331万円、6千164万円の減となりました。

また、支出合計は、予算の6億4千326万円に対し決算は5億6千656万円、7千670万円の減となりました。この結果、収支決算は、4億4千325万円の不足となりました。

この不足額については、収益的支出のうち現金の支出を必要としない費用の減価償却費など、内部留保している損益勘定留保資金などで補填しました。

資本的収支

項目	金額
資本的収入	1億2,331万円
企業債	1億1,150万円
負担金	1,035万円
国庫補助金	146万円
資本的支出	5億6,656万円
建設改良費	3億233万円
企業債償還金	2億6,423万円
不足	4億4,325万円